



グローバルな課題の解決に向けて

ーデータベース活用で「21世紀型スキル」の育成を図るー



畝岡 睦実

<抄録>

「サーチャー技術を磨く」講座として、新聞記事データベースの1つ「朝日けんさくくん」の講習を行う。データベースの検索方法が周知され、探究学習において効率のよい情報収集を行えるようになった。こうしたICTを活用したNIEは、「21世紀型学力」の涵養を期待できる。

<キーワード>

グローバル人材の育成, 21世紀型スキル, 探究学習, 「サーチャー技術を磨く」講座

1 はじめに

岡山県立岡山城東高等学校は「進取・協同」を校訓としており、生徒たちは明るく自由な学校生活を送っている。人文社会学類・国際教養学類・音楽学類・理数学類に分かれており、学類ごとに準備された多種多様な講座が専門の学びに対する知的好奇心を高める。「生徒一人ひとりの多彩な才能を開花させる教育の推進」「グローバル化が進化する社会のリーダーを育成すること」をミッションに掲げ、平成24年度からは「ステージは『世界』だ!」というグローバル人材の育成の取り組みを行っている。

平成26年度には、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され、それに伴って、探究活動のための基礎的な知識・技術の習得を目指す「GLOBAL I」(学校設定科目)、学類を越えたチームで本格的な課題研究を行う「GLOBAL II」(総合的な学習の時間)、海外進学も視野に入れ、高度な課題研究を行う「GLOBAL III」(学校設定科目)が新設された。生徒は、これら教科「GLOBAL」ではもちろん、学類コア科目・専門科目等多数の科目で調べ学習に取り組んでいる。

2 「朝日けんさくくん」の導入の経緯

こうした「城東の教育」において、学校図書館では、ただ書籍を貸し出すのではなく、「21世紀型スキル」の育成と涵養、特に「情報リテラシー・調査活動」にかかわる能力の向上を目指す。

「21世紀型学力」として新しく求められるようになって

た「知識創造組織でよくみられる21世紀型スキル」には「コラボレーション・チームワーク」「情報リテラシー・調査活動」「ICTリテラシー」「学び方の学習・メタ認知」が挙げられている。その中でも、「情報リテラシー・調査活動」は、「知識リソースを建設的に活用し、またそれに対して貢献することで、よりよいアイデアを社会的に蓄積して拡大する。知識リソースや情報を発展させるための取り組みの中に知識創造が位置づけられる」(『21世紀型スキル 学びと評価の新たなかたち』三宅なほみ編著, 北大路書房, 2014年)とされる。

そこで、「21世紀型学力」の育成に向けた学習環境の整備として、平成24年度末に、開校当初より使い続けてきた蔵書管理システムをより優れた検索能力を持つシステムに切り替えるとともに、岡山県立図書館が立ち上げた「学校支援システム」を利用し、他校と相互貸借を行える環境も整えた。新聞記事データベース「朝日けんさくくん」の導入もこれらと同時に決定した。図書館では、英字新聞も含め全国紙・地方紙7紙を購読できる。それらに加えて、情報検索ツールとしての活用を目的とする導入である。

3 「朝日けんさくくん」の周知に関する工夫

「朝日けんさくくん」の導入時に、リンク集を作成した。他社のデジタル新聞記事検索サイト、論文検索サイトCiNiiや電子政府e-Gov、国立国会図書館や岡山県立図書館等にもリンクを張った。このリンク集を学校図書館



図1 学校図書館のトップページ

UNEOKA, Mutsumi: 岡山県立岡山城東高等学校(岡山県岡山市中区下110)

のホームページのトップページとし、どのパソコンからでもたやすく検索できるようにした。これによって、「朝日けんさくくん」は、そのつど「ID」「パスワード」を入力する必要がなくなった（図1）。

また、「サーチャー技術向上のための特別講座」を開講し、「朝日けんさくくん」を実際に体験するワークショップを行っている。入学時の図書館オリエンテーションで情報収集の方法を紹介するが、なかなか周知徹底しない。そこで、学校図書館主催でさまざまな講座を放課後開催している。県立図書館や国会図書館の資料検索や取り寄せの仕方・論文検索に関する講座を行い、「サーチャー技術」の向上を図る。各講座には、生徒だけでなく、教科「GLOBAL」やその他の調べ学習の指導を担当する教員の参加もあり、好評である。講座終了後、個人的に講師に質問する生徒も多い。「朝日けんさくくん」に関するワークショップもその1つである（図2）。



図2 「サーチャー技術を磨く」講座のポスター

4 「朝日けんさくくん」を活用した授業の実際

SGH指定校として2年目を迎えている。タブレットPCも導入され、情報検索が普通教室でも可能になった。昨年度「GLOBAL I」の履修を終えた2年次生は、全員が「GLOBAL II」の学習に励んでいる。

2年次生はマレーシア・韓国・北海道・筑波等のコースに分かれて学類研修に出かけた。4月から、多くの書籍や新聞記事データベースを活用して事前研究を続け、現地での研修成果と併せて、レポートにまとめた。

現在「GLOBAL II」では、「岡山県産シーズの世界戦略の課題と提案」「ODAを巡る国内外の変化を踏まえた国際協力の課題と提案」「児島湖の歴史的な役割と環

境問題の課題と提案」「吉備の古墳群を代表とする岡山の古墳の保護と活用について課題と提案」など8つの研究テーマに分かれ、学類の枠を越えてチームを組み、協力して研究を行っている。駅で通行人を対象に調査したり、校外の専門機関を訪問したり、フィールドワークも各チームで工夫を凝らして実施している。研究の結果は、2月に行う課題研究発表会で発表する（写真1）。

また、3月には選抜メンバーが「海外修学研修」に出かけ、研究の成果を踏まえて、海外の大学や高校、国際機関で発表や意見交換を行う。

年間通して行われるこれらの探究学習では、効率的な情報収集を行う必要がある。「朝日けんさくくん」は、多岐にわたるテーマに関して、有効な情報源として活用できる便利なツールになっている。



写真1 教科「GLOBAL」のポスターセッション
(岡山市民会館)

5 まとめ

新聞記事データ検索は、グローバルな課題解決に向けて行われる探究学習に非常に有効である。世界中のあらゆる情報を環境・歴史・科学などさまざまな領域にわたって収集できた。大勢の生徒が同時に利用できることの利点も大きい。

今回の報告以外にも、国語科や地歴公民科の教科学習の中でも、データベースを活用している。例えば、「朝日けんさくくん」で検索した記事について、クラスメートだけでなく、他府県の中学生や高校生とインターネットを使って意見交流を行う授業も行っている。「情報リテラシー・調査活動」に留まらず「ICTリテラシー」の育成も図ることのできるこうした取り組みも、今後さらに研究していきたい。

NIEが涵養する学力は幅広い。「21世紀型学力」の育成を期待できる新聞記事データベースの活用は、さらにNIEの可能性を広げると確信している。